

第二回發表

今東西の典籍
由選擇の普及版

[illegible]

★一ツ二十歳

(透料は左
下参照)

既刊書目

11

第一分冊 河川上
 第二分冊 河川上
 第三分冊 河川上
 第四分冊 河川上
 第五分冊 河川上
 第六分冊 河川上
 第七分冊 河川上
 第八分冊 河川上
 第九分冊 河川上
 第十分冊 河川上
 第十一分冊 河川上
 第十二分冊 河川上
 第十三分冊 河川上
 第十四分冊 河川上
 第十五分冊 河川上
 第十六分冊 河川上
 第十七分冊 河川上
 第十八分冊 河川上
 第十九分冊 河川上
 第二十分冊 河川上
 第二十一分冊 河川上
 第二十二分冊 河川上
 第二十三分冊 河川上
 第二十四分冊 河川上
 第二十五分冊 河川上
 第二十六分冊 河川上
 第二十七分冊 河川上
 第二十八分冊 河川上
 第二十九分冊 河川上
 第三十分冊 河川上
 第三十一分冊 河川上
 第三十二分冊 河川上
 第三十三分冊 河川上
 第三十四分冊 河川上
 第三十五分冊 河川上
 第三十六分冊 河川上
 第三十七分冊 河川上
 第三十八分冊 河川上
 第三十九分冊 河川上
 第四十分冊 河川上
 第四十一分冊 河川上
 第四十二分冊 河川上
 第四十三分冊 河川上
 第四十四分冊 河川上
 第四十五分冊 河川上
 第四十六分冊 河川上
 第四十七分冊 河川上
 第四十八分冊 河川上
 第四十九分冊 河川上
 第五十分冊 河川上
 第五十一分冊 河川上
 第五十二分冊 河川上
 第五十三分冊 河川上
 第五十四分冊 河川上
 第五十五分冊 河川上
 第五十六分冊 河川上
 第五十七分冊 河川上
 第五十八分冊 河川上
 第五十九分冊 河川上
 第六十分冊 河川上
 第六十一分冊 河川上
 第六十二分冊 河川上
 第六十三分冊 河川上
 第六十四分冊 河川上
 第六十五分冊 河川上
 第六十六分冊 河川上
 第六十七分冊 河川上
 第六十八分冊 河川上
 第六十九分冊 河川上
 第七十分冊 河川上
 第七十一分冊 河川上
 第七十二分冊 河川上
 第七十三分冊 河川上
 第七十四分冊 河川上
 第七十五分冊 河川上
 第七十六分冊 河川上
 第七十七分冊 河川上
 第七十八分冊 河川上
 第七十九分冊 河川上
 第八十分冊 河川上
 第八十一分冊 河川上
 第八十二分冊 河川上
 第八十三分冊 河川上
 第八十四分冊 河川上
 第八十五分冊 河川上
 第八十六分冊 河川上
 第八十七分冊 河川上
 第八十八分冊 河川上
 第八十九分冊 河川上
 第九十分冊 河川上
 第九十一分冊 河川上
 第九十二分冊 河川上
 第九十三分冊 河川上
 第九十四分冊 河川上
 第九十五分冊 河川上
 第九十六分冊 河川上
 第九十七分冊 河川上
 第九十八分冊 河川上
 第九十九分冊 河川上
 第一百分冊 河川上

[illegible]

愛と死との戦い
ロマンチックな傑作
★ ★ ★ ★ ★

ブ
ラ
ッ
ロ
タ
ゴ
ラ
ス
菊池雄一郎★
(前刊)
オ
ネ
ー
ギ
ン
井川ユキ子作 ★★
佐田正夫挿絵
上十
旬月
科
学
の
價
値
ア
ン
カ
元
著
★★

カシ
ブ、ロ
レゴ
ーメ
ナ天
野景
良俊
語訳
★
(新刊)
好色
一代男
和四
田田
萬萬
吉誠
校作
★
(新刊)
大科
國富
論(三)
星又
吉田
西非
露二
★★★

ゲエテとの對話抄 ニッパルマン著
足英四郎譯 (新刊) 好色一代女 西田眞矢校訂
和田眞矢校訂 (新刊) おらが春 芭蕉七部集
我春集 伊藤
一井
森
永
夫
作 石田
廬
王
校訂
佐々
木
祐
三 ★★

チャールズ・ダーウィン
小泉 昇 著
★ (新刊)

好色五人女
和田 英吉 校訂
★ (新刊)

古今和歌集 野上性子著 (新刊)
希羅風流 柳田健作著 (新刊)
心天の綱島 和田寛一郎著
戦争と平和 三木正太郎著

奥	古
の	今
細道	有
その他	哥
芭蕉と 菫との 仲	琴瑟 九上ハ 八下相 和曲
新刊	正刊
里	句
	うた
	ため
	な
	の
木	語
木津巻	永来集より
奥	巻
幼外	院
形	外著
☆	★
新刊	新刊
生	同
け	の
る	
屍力	名不
	用天
	正正
	会器
イイイ	イイイ
★	★

花傳書
世上阿彌陀佛
上田敏詩抄
野齋全稿
賢者ナリタシ
父ヤミナシ

綱島梁川集
三十一年四月刊
安部公房 著
※※
千曲川のスケッチ
島崎藤村 著
※
櫻子の歩
三木清 著
※
米川正太郎の青春
三木清 著
※

俗樂旋律考土屋六四郎著
（上）
布施太子の入山金田百三著
（新刊）
令儀小宮辰雄
野村胡堂
星亨

小 公 子
 若松 辰子 許（十一旬）
 〔括弧内の数字は發賣の豫定期日〕
 春の目さめ
 にこりえたけくらべ
 好上 一 萬葉 一
 口 一 萬葉 一
 口 一 萬葉 一

河上肇 富實共譯
岩波文庫版
※第三品目三冊

す。……少くとも地下のマルクス對して顔の合はられぬやうなことはない」云々とあり、以後博士が移り心づをしつて二三日後、「君とあんなに親しい友人を失ふのは、さういふことではないか」といふ。

痘 仰
疥 臥
六 浸
尺 皰
疔 子
疳 子
癰 子
瘻 子
痔 子
漏 子
癰 子
瘻 子
痔 子
漏 子

マシテ
外貨
五口
日本
多
...

より資本論最良の邦譯として民衆に向つて推薦される事となつた。無産者新聞は眞理を熱愛する新進有爲の學徒が正

五重塔
北村透谷集

五重塔
北村透谷集

幸村諱抄
 爲 晴康 村田康
 氏爲小島重實 氏爲

マルクスに傾倒せる親上博士が、マルクス資本論在來の邦譯として吾が資本論を推薦するところ與重壽翁故日交り成たりと

田家とその弟子
○須牛膏牧
○紙師、子孫百餘世傳信爲儒術

に接遇たるものあり、慨然慕道して、川學士と共に心血を盡がれしものが本著である。譯者の翻譯に従事せられるや眞摯とが出来る。吾人は名士や大新聞の讚美の辭よりも眞面目

一、マヤノラビ
二、マヤノラビ
三、マヤノラビ
四、マヤノラビ
五、マヤノラビ
六、マヤノラビ
七、マヤノラビ
八、マヤノラビ
九、マヤノラビ
十、マヤノラビ
十一、マヤノラビ
十二、マヤノラビ
十三、マヤノラビ
十四、マヤノラビ
十五、マヤノラビ
十六、マヤノラビ
十七、マヤノラビ
十八、マヤノラビ
十九、マヤノラビ
二十、マヤノラビ
二十一、マヤノラビ
二十二、マヤノラビ
二十三、マヤノラビ
二十四、マヤノラビ
二十五、マヤノラビ
二十六、マヤノラビ
二十七、マヤノラビ
二十八、マヤノラビ
二十九、マヤノラビ
三十、マヤノラビ
三十一、マヤノラビ
三十二、マヤノラビ
三十三、マヤノラビ
三十四、マヤノラビ
三十五、マヤノラビ
三十六、マヤノラビ
三十七、マヤノラビ
三十八、マヤノラビ
三十九、マヤノラビ
四十、マヤノラビ
四十一、マヤノラビ
四十二、マヤノラビ
四十三、マヤノラビ
四十四、マヤノラビ
四十五、マヤノラビ
四十六、マヤノラビ
四十七、マヤノラビ
四十八、マヤノラビ
四十九、マヤノラビ
五十、マヤノラビ
五十一、マヤノラビ
五十二、マヤノラビ
五十三、マヤノラビ
五十四、マヤノラビ
五十五、マヤノラビ
五十六、マヤノラビ
五十七、マヤノラビ
五十八、マヤノラビ
五十九、マヤノラビ
六十、マヤノラビ
六十一、マヤノラビ
六十二、マヤノラビ
六十三、マヤノラビ
六十四、マヤノラビ
六十五、マヤノラビ
六十六、マヤノラビ
六十七、マヤノラビ
六十八、マヤノラビ
六十九、マヤノラビ
七十、マヤノラビ
七十一、マヤノラビ
七十二、マヤノラビ
七十三、マヤノラビ
七十四、マヤノラビ
七十五、マヤノラビ
七十六、マヤノラビ
七十七、マヤノラビ
七十八、マヤノラビ
七十九、マヤノラビ
八十、マヤノラビ
八十一、マヤノラビ
八十二、マヤノラビ
八十三、マヤノラビ
八十四、マヤノラビ
八十五、マヤノラビ
八十六、マヤノラビ
八十七、マヤノラビ
八十八、マヤノラビ
八十九、マヤノラビ
九十、マヤノラビ
九十一、マヤノラビ
九十二、マヤノラビ
九十三、マヤノラビ
九十四、マヤノラビ
九十五、マヤノラビ
九十六、マヤノラビ
九十七、マヤノラビ
九十八、マヤノラビ
九十九、マヤノラビ
一百、マヤノラビ

韓漫なる態度と熾盛なる良心を以てし一字一句く
 る無産者新聞の責任ある推挙を千鈞の重きをなすものと
 もするところなしに、謙遜なる博士の私信にも正確さ丁寧
 主見力をもつて二、三台詞選りたれども、正しく此事實を満
 足せざるものなり。

★★★★★
 金銭六四二一
 四二一

一八
 十
 四
 六
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

岩波文庫の現品は全國
東京神田
振替東京二六四〇番
（三〇八番）
（五五七番）

岩波書店

各書店にて御覽を乞ふ
神保町
電話力図
(33) 二〇三番
二〇九番
二〇三番
岩波書店

100

1000

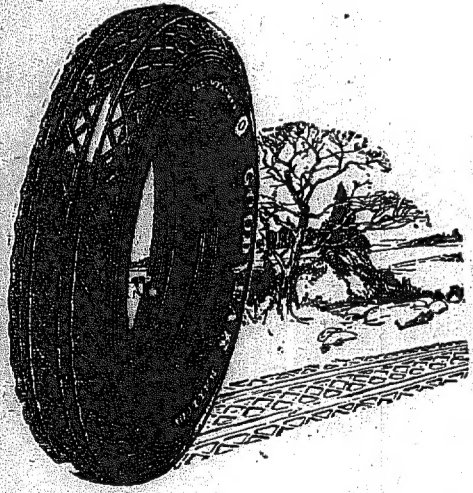
[illegible]

功成トツキはれあか金資の門手
内案業開本資小

[illegible]

グッドバイ

最優秀新型バルーンタイヤー
二ヶ年間の苦心研究の結晶として完成された
グッドイヤー新型バルーンは、果然バルーン
タイヤー界の大革命となりました。
その成功の素晴しさは目下の破竹の賣行によ
り何よりも雄辯に證明されて居ります。



號月一十 論公人婦

オールツモビル號の
定 價 値 下 げ

輕型は參千五百圓より貳千九百七拾
五圓に、セダン型は四千貳百五拾圓
より參千九百七拾五圓に改正
從來とても非常に格安な優良車であ
つたに此の新定價によつて一層有
利なる買物となつた
弊社は其能率増進と工費削減の結果
を其まづ購入者に委譲します
日本デマール・モーター・販売會社
ビウルク・オートグロス・トラフク
別館一手販賣店

京城自動車商會

京城府芝峯町四三番
電話本局七七一六番

ルラネ・ゼ本日本
社會式株ステーモ

オールツモビル

[illegible]

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

花占ひの頁一列

繪畫講座

風變りな松茸料理

現代文壇八人

瀨戸物の話
ジョーン・パリモア
愚人の唄
空の袋
夢の愛人

田村松坡
森岩雄
正宗白鳥
谷崎潤一郎
細田源吉
松岡 暁

店

進!!
振!!

土 木 建 築 材 料
パイプ 機械 工 業 用 鋸 屑



秋の新作
アインサ
小川ハコスエインサ



△S角
新製品
山形県
新発田
第二町
三丁目
目録

躍進、躍進!!
超絶時、振、!!



地球

筆年萬

サ

サ



古川實作
大村安次郎書

[illegible][illegible][illegible][illegible]

(六) 五先先生 形勢をわづかにし、それによつて、
 局新基圖
 (六) 五先先生 形勢をわづかにし、それによつて、
 局新基圖
 (六) 五先先生 形勢をわづかにし、それによつて、
 局新基圖

[illegible]

(すてきなとき 易し 用服で 總)

ワツミ 驅蟲錠 一 四 驅蟲なる衛生に 用ひ	ワツミ 清腸錠 四十錠 腹内を清くし 便秘を治す	ワツミ 止瀉錠 四十錠 下痢 急慢性腸炎以外の 原因によるもの	ワツミ 緩下錠 二十五錠 六十錠 便で腸の結合 をゆるめ	ワツミ 制酸錠 二十錠 胃酸 過多、胃酸過多 による胃痛	ワツミ 消化錠 四十錠 一 四 便で消化不良の 結合	ワツミ 胃腸散 二十錠 個人依り 胃腸が弱く、胃酸 過多	ワツミ 健胃錠 二十錠 五十錠 胃が弱く、胃酸 過多、便秘
ワツミ フロビン 一 四 八十錠 膀胱炎、尿道が弱く なる	ワツミ 婦人湯薬 七十錠 血の毒、貧血、 不妊、白帯、 月経不調	ワツミ 鎮静錠 一 四 片頭痛、不安、 不眠	ワツミ 人參錠 二 四 衰弱、老衰、 病後	ワツミ ミューズ 八十錠 根柢の恢復 腎臓病、糖尿病、 骨格の恢復	ワツミ 鎮咳錠 五十錠 咳 呼吸器の病、 喉痛	ワツミ 解熱錠 四十錠 感冒、喉痛、 熱症	ワツミ 清涼劑 十 四 四十錠 口内炎、喉痛、 熱症

【現在に認可受審、知照は非効、注用、左下】

ふ揃を方二十三薬效卓の記明方處

特 徴

- 一、**效力を公開して内容を明瞭してあります。**
- 二、**効力は的確にして素早い服薬であります。**
- 三、**錠剤は精確にして効力は一定不変であります。**
- 四、**藥品は純良にして中毒の危険がありません。**
- 五、**容器は完全にして發賣の底がありません。**
- 六、**内服薬は錠剤にして服用し易いのであります。**

西屋見丸 京東 舖本鹹石ワツミ(

○こいワ解熱錠

適應症

感冒、流行性感冒、齒痛、口瘡、
肩凝、急性及び慢性レウマチス、
種々の神經痛、疝氣、寸白。

ツワ解熱錠

明治三十二年の
成分
の主
アセチ
サリチ
ル酸
イ

ツワ解熱錠三十二錠の内、
國藥士 小寺嘉兵衛監製



最も用ひ易く、保存し易き錠
形に出来て居り、其處方は公開
せられ、用法効能ともに、委し
く説明書に記載せられてありま
すから、誠に重寶です。

百二十錠 埋入
定價金四十口

（二）精品类

[illegible]